FINHEEC

# 質保証における学生参画の理念と実践：ENQAの観点とフィンランドの例

**22.7.2013 Tokyo**
**Helka Kekäläinen, Ph.D.**
Secretary General

# なぜか? - 概念の変化

- 学習(learning)は望ましい教育パラダイムとして教授(teaching) にとってかわった
- 学生は知識の創造者ととらえられる。
- 自分の学習プロセスの評価を含む学習の責任は、学生に移る。
- 教育はまた、個人の成長を目指している。包括、参加の意識及び批判的に自分を評価する能力は、伝達可能な技術と個人の成長を達成するための必要条件である。
- 高等教育は民主主義社会の発展に貢献 =>関係者全員からのインプットが求められている。
- 知識社会:将来の高等教育は、循環的、状況的、学生主導とされており、教育の制度的管理に対する課題を提示し、教育の評価に影響する。

# ENQAの観点

ENQA – 欧州高等教育質保証協会

ESG – 欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン

機関の内部質保証についての戦略、方針手続きには学生の役割が含まれているべきである。教育プログラムと学位の質保証には学生の参加が含まれていることが期待される。外部質保証プロセスにも学生の参加が含まれているべきであり、外部評価専門家グループには、必要に応じて、学生メンバーを含める必要がある。ENQAの専門家パネルが調整したメンバー機関の外部評価は常に欧州学生ユニオン（ESU）によって提案された学生メンバーを含む。

# 学生参加の分類

1. 情報提供者としての学生
2. 行為者としての学生
3. 専門家としての学生
4. パートナーとしての学生

# 歴史

フィンランドの学生がどのようにして高等教育において非常に重要な参加者になりえたのか

# 全国学生ユニオン - SYL

- フィンランドの全国学生ユニオン(SYL)は、二つの地域学生ユニオンによって1921年に設立された。
- 国際的な会議でフィンランドの学生を代表した。
- すでに1930年代には、SYLは国際的な学生及び実習生の交換制度を組織し、近隣諸国と積極的に協力していた。
- 第二次世界大戦までは、国際的活動がSYLの主要優先事項であったが、その後、社会福祉や教育政策がより重要になった。SYLは常に学生や教育に関するすべての事項に積極的に関与し、主導権を取ってきた（例えば、学生健康サービス、住宅、学習支援や助成制度、環境の問題と平等など）。
- 第二次世界大戦の後、新しい、グローバルな学生活動が発展。SYLは、国際学生ユニオン(IUS)の設立メンバーの一つである。

# 世界情勢下の冷戦による分裂

- 世界的な学生運動の二つのイデオロギー：共産主義運動と、様々な国の学生に具体的なサービスを提供する非政治的な国際機関というアイデア。
- SYLは1956年のハンガリー動乱（ソ連軍のブダペスト侵攻）後、IUSを脱退し、対立する学生団体である国際学生会議（ISC）に参加した。
- 1967年にはCIAが間接的にISCに資金を提供し、IUSで共産主義に積極的に反対する米国の全国学生協会（USNSA）からの学生を募集していたことが判明した。
- 資金不足に起因するISCの解散が1969年に現実となり、IUSが今一度、唯一の世界的な学生団体となった。

# 革新的な三部構成システム

- 1960年代に、フィンランドの学生は、大学の意思決定におけるより重要な役割を要求し始めた。
- フィンランドの大学におけるすべてのレベルの意思決定組織は教授、学生、及びその他職員の代表からなる。
- 取り決めは大学法に正式に記されている。
- すべての学生は自動的に地域の学生ユニオンのメンバーになり、各機関のユニオンはSYLのメンバーである。地域の学生ユニオンは、大学内のすべての正式な意思決定組織に参加する学生の代表を選出する責任がある。学生ユニオンの立場は大学法で定義されている。
- 学科レベルでの学生団体
- 大学は科学共同体である: 学生は、クラスをとる生徒としてではなく、学術機関における新来のメンバーと見なされている。

# ヨーロッパにおける展開

# 端緒

- ESUは、西ヨーロッパ学生情報局(WESIB)と呼ばれていた七つの全国学生ユニオンによって1982年に設立された。
- 様々な国の学生に具体的なサービスを提供する非政治的な国際的情報共有機関のアイデアは、初期段階のESUを特徴づける。
- 1980年代終わりの東ヨーロッパの政治的変化は、WESIBにも影響を与え、旧東側の全国学生ユニオンに加盟を拡大した。
- 1990年2月、WESIBは“W”をはずし、欧州学生情報局（ESIB）となった。

# ヨーロッパの統合及びボローニャ・プロセス

- ESIBからESUへ、単なる情報共有組織から学生の意見や利益を代表する政治組織に変化した。
- 今日、欧州学生ユニオン（ESU）は、39の欧州諸国から47の学生ユニオンが加盟する傘下組織である。
- ESUは、ヨーロッパの主要な意思決定機関全て（欧州連合、欧州評議会、UNESCO及びボローニャ・フォローアップ・グループ）に対し、11百万人の学生の教育、社会、経済及び文化的利益を促進し、代表する。
- ESUは、欧州および国際的なレベルで影響を与え、重要な利害関係者として認識されている、アドボカシーとキャパシティ・ビルディングを行う組織である。

# ESUの目的と活動

- ESUは、学生参加を保証し強化すること、及び地域、全国、欧州レベルでの高等教育政策および意思決定に学生からのインプットを増やすことを目指している。
- ESUは、万人のための質、公平性及びアクセスに関する価値観に基づいて高等教育システムを推進していく。
- すべての機関レベルでの高等教育政策に関する専門知識の源としてESUは、リンクを構築し、地域および世界レベルでの学生や学生プラットフォーム間での情報、アイデアや経験の交換を促進する。

# 学生参画の強みと課題

# 学生参画の強み

- 専門的知識：学生は、評価の計画と実施において、他の専門知識に置き換えることができないような、学習や学生の問題についての専門知識を代表する。
- 信用性：学生の強力な役割をもつことで、教職員の視点のみならず、学生の視点からみても評価に信用を与えられる。
- 影響：評価に参加することによって、学生は、教育の向上に影響を及ぼす機会を持つ。評価が完了すると、学生は評価の結果を推進する役割を担う。

# さらなる強み：

- 学術的共同体におけるパートナーシップ: 評価への参加は、学術的共同体における対等なメンバーとしての学生の役割を強化する。
- 学習プロセス：国全体の評価プロジェクトへの参加は、学生に個人として、また、集団としての能力を向上させるかけがえのない機会を提供する。評価は大変な作業をしばしば要求するが、それらに参加した学生や学生ユニオンはその経験に非常に満足している。

# 学生参画の課題

- 代替わりとトレーニング：学生のほとんどは、学生ユニオンに2～3年携わるだけである。評価作業について新しい学生を継続的にトレーニングする必要がある。
- 動機づけと報酬：時には、学生が自己評価プロセスに参加する動機づけが必要である。
- 代表性：学生は均質なグループではなく、多くの意見を持っている。
- 限られた視点：学生は教育の専門家や他の評価チームメンバーに比べて教育についての経験が少ない。

# ご清聴ありがとうございました！